

エコアクション21

2018年度 環境活動レポート

対象期間 2018年4月1日～2019年3月31日

発行 2019年 4月 27日
修正 2019年 9月 30日

株式会社 サン電材社

株式会社 **サン電材社**



TOKAI RIKAI GROUP

株式会社サン電材社 2018年度環境レポート 目次

1.環境方針	2
2.事業概要	3
3.環境管理実施体制		
① 組織図	4
② 役割と責任、権限	5
4.環境と負荷 目標と実績		
① 年度目標と結果・評価	6
② 実績評価の詳細	7
5.2019年度目標	8
6.中期目標	9
7.環境改善事例	10
8.法規・法令順守状況	11
9.代表者による全体評価と見直し	12

株式会社サン電材社 環境方針

① 環境への取り組み 基本方針

- 1.社会の一員として、環境への取り組みを全社一丸となり進めます。
- 2.法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、
環境汚染の未然防止を進めます
- 3.環境改善活動および社会貢献活動を全社的・継続的に実施展開します。

② 環境への取り組み 行動指針

- 1.環境目標の設定と継続的改善
当社の環境負荷削減のため、環境目標を設定し、目標達成のため全社で取り組みます。また、継続的な改善を図り、環境にやさしい企業を目指します。
- 2.産業廃棄物の削減とリサイクルの推進
産業廃棄物の分別の推進やリサイクル意識の向上を図ることでリサイクル率を高め、廃棄物総量の削減を推進します。
- 3.CO2排出量の削減と水資源の節約
空調や照明などの効率的な運用により電力使用量の削減および、社用車のハイブリッド車両導入やエコ運転の推進等を通じ、CO2排出量削減を推進します。また、水道等の水量適正化や連続使用の抑制、節水意識の向上をはかり、水資源の利用節減を推進します。
- 4.環境負荷の低いものづくりと、グリーン購入の推進
製造する製品について、省エネ型製品の設計や環境負荷の低い部材の採用など製品の構想・設計段階から環境負荷の低いものづくりを推進します。また、事務用品のグリーン購入・環境配慮型製品購入を推進します。
- 5.法令遵守
環境関連法令、条例、規制を遵守し、社会の一員としての責務を果たします。
- 6.近隣および社会との共存共栄
環境教育や啓蒙活動などの環境活動を通じ、全社員の環境意識の向上に努め近隣地域ならびに社会との良好な関係を育み、共存共栄に努めます。

2018年 4月 1日

株式会社 サン電材社

代表取締役

中川 英雄

2.事業概要

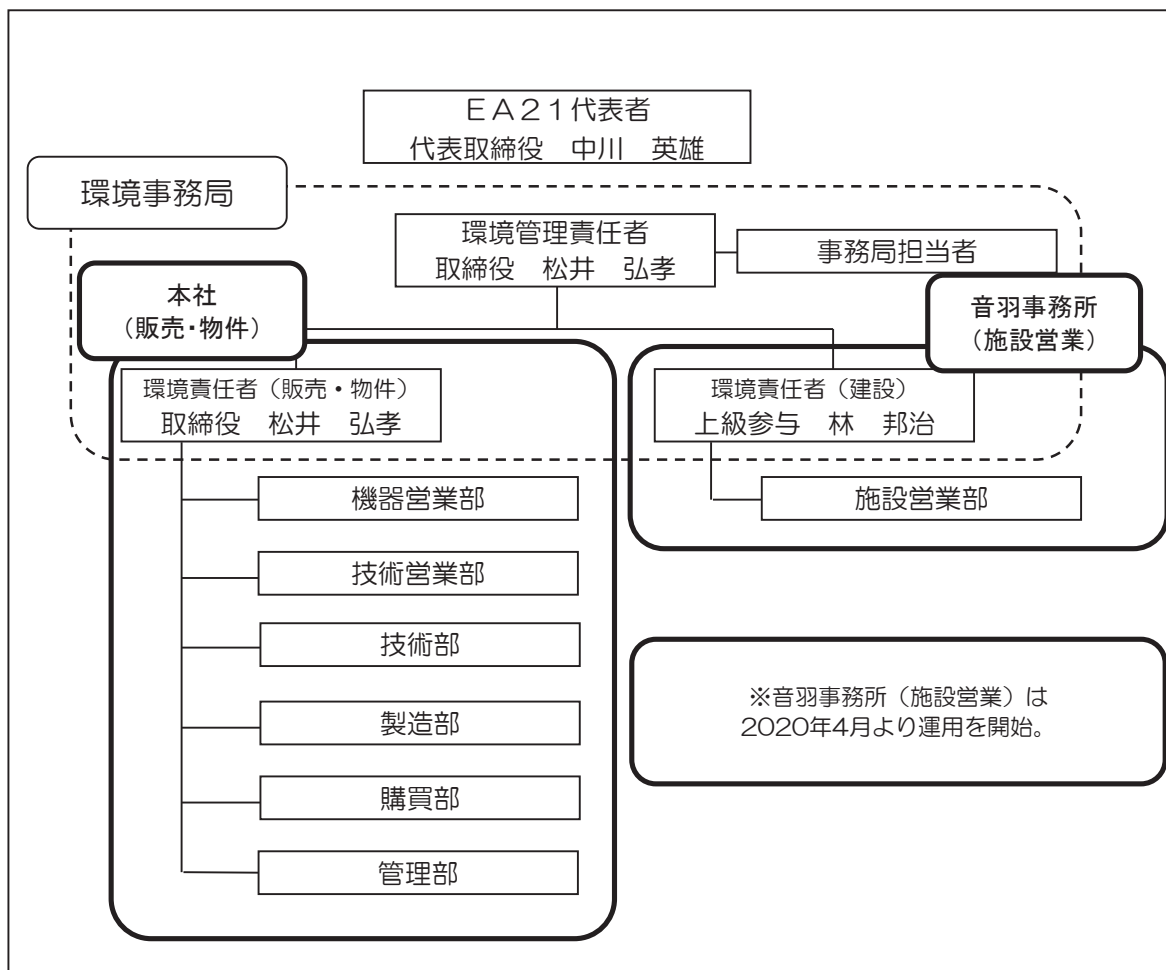
事業者	株式会社 サン電材社
本社所在地	愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7
代表者	代表取締役 中川 英雄
事業内容	産業用機械（自動機・検査機）及び 試験機的设计・製造・販売・メンテナンス 電機・機械部品の販売 建設業（一般建築・土木業）
事業拠点	本社工場・事務所 〒441-8113 愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7 TEL：0532-38-5631（代表） FAX：0532-38-5862 事業所延べ面積：5580㎡ 建物面積 4641㎡ ※音羽事務所 〒441-0295 愛知県豊川市赤坂町平山1番地 TEL：080-6978-1943（林） FAX：0533-88-3098 事務所延べ面積：30㎡
事業の規模	事業期間 第46期（2018年4月～2019年3月） 売上高：6,785百万円（内 製作物：3,981百万円）
従業員数	96名（2019年3月31日時点） 内：本社 68名
環境管理責任者	取締役 管理部長 松井 弘孝 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：h.matsui@sandenzai.co.jp
EA21推進事務局 （連絡先担当者）	管理部 室川 研児 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：k.murokawa@sandenzai.co.jp

対象範囲：本社

※音羽事務所（建設）は2020年4月より運用。

3.環境管理実施体制

① 組織図



作成： 2018年4月1日

3.環境管理実施体制

② 役割と責任、権限

役割・責任・権限	
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等の準備 環境管理責任者を任命 環境目標・環境活動計画書を承認 環境方針の策定 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめを承認 環境目標、環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境方針の全従業員への周知 環境活動レポートの確認 審査結果及び是正措置等の代表者への報告
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、E A 2 1 の推進 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開 環境重要設備の手順書作成及び運用管理 特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練の実施、記録の作成
環境責任者	<ul style="list-style-type: none"> 拠点における環境経営システムの実施 拠点における環境方針の周知 拠点の従業員に対する教育訓練の実施 拠点に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 拠点の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4.環境負荷 目標と実績

① 年度目標と結果・評価

主な環境負荷の実績 (通年実績)

環境への負荷		単位	2016年度	2017年度	2018年度	
① 二酸化炭素排出原単位	電力消費による排出	kg-CO ₂ ÷千万円	330.5	351.2	242.2	
	化石燃料消費による排出	灯油	kg-CO ₂ ÷千万円	0.5	1.0	0.2
		ガソリン	kg-CO ₂ ÷千万円	220.4	207.7	175.3
	合計	kg-CO ₂ ÷千万円	559.9	559.9	417.7	
② 廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	産業 廃棄物	(中間処理廃棄物)	t	25.3	10.7	10.0
		(埋立廃棄物)	t	0.0	0.0	0.0
		最終処分量	t	25.3	10.7	10.0
③ 水使用量	上水	m ³	539	539	558	
④ グリーン購入	グリーンマーク付事務用品の購入品目	品目	2	4	3	
⑤ 省エネルギー型 製品設計製造	技術関連会議でのOCD活動	回数	12	12	12	

環境目標の設定 (年度目標)

	詳細	単位	目標値		
			基準年 2015年度	2018年度	
二酸化炭素 排出原単位の削減	2015年度比 原単位2%減少	kg-CO ₂ ÷千万円	電力	336	330
			灯油	1.4	0.5
			ガソリン	247	184.9
			合計	584.4	515.4
廃棄物排出抑制	2015年度比2%削減	t	24.6	24.1	
節水	使用量500m ³ 維持	m ³	485	500	
グリーン購入	グリーンマーク付事務用品購入品目の拡大	品目	2	3	
省エネルギー型 製品設計製造	技術関連会議でのOCD活動	回数	12	12	

環境目標の達成状況 (2018年度)

	詳細	単位	目標・実績比較		削減率	評価	
			種類	目標			実績
二酸化炭素 排出原単位の削減	2015年度比 原単位2%減少	kg-CO ₂ ÷千万円	電力	330	242.2	73.4%	○
			灯油	0.5	0.2	40.0%	○
			ガソリン	184.9	175.3	94.8%	○
			合計	515.4	417.7	81.1%	○
	基準となる売上高	千万円		678.5			
二酸化炭素 排出量	総量	kg-CO ₂	293,604	283,468.0	96.5%	○	
廃棄物排出抑制	2015年度比2%削減	t	24.1	10.0	41.3%	○	
節水	使用量500m ³ 維持	m ³	500	558	111.6%	×	
グリーン購入	グリーンマーク付事務用品購入品目の拡大	品目	3	3	100.0%	○	
省エネルギー型 製品設計製造	技術関連会議でのOCD活動	回数	12	12	100%	○	

4.環境負荷 目的と実績

② 実績評価の詳細

I.2017年度からの変化点

項目	詳細
売上高の上昇	前年比で売上高が大きく伸長。

II.目標達成のための活動内容

活動	活動内容
二酸化炭素 排出原単位削減	電力 空調の設定温度基準内運転・未稼働区域、設備の電源OFF励行 灯油 無人になる場所のストーブ一時休止 ガソリン 東海理化本社駐在事務所設置による、東海理化本社便の削減
廃棄物排出抑制	混合廃棄物の分別啓蒙（金属等⇒有価物へ）
節水	水道使用啓蒙（現場に啓蒙用表示）
特定化学物質の使用減少	保管化学物質の整理・廃棄、必要最小限度までの保管
グリーン購入	グリーンマーク付事務用品の購入拡大

III.目標・実績評価と達成/未達要因について

① 二酸化炭素 排出原単位の削減

…	目標	実績	単位	評価	主要因	
電力	330.0	242.2	kg- CO_2 /千万円	26.6%減	○	電力使用に対する売上の上昇
灯油	0.5	0.2	kg- CO_2 /千万円	60%減	○	暖冬によるスポット利用の減少
ガソリン	184.9	175.3	kg- CO_2 /千万円	5.2%減	○	豊橋⇒小牧（TR本社）定期便の減少（現地事務所開設）
合計	515.4	417.7	kg- CO_2 /千万円	18.9%減	○	売上の上昇（資源・エネルギー効率の上昇）

③ 廃棄物排出抑制

目標	実績	単位	評価	主要因	
24.1	10.0	t	58.7%減	○	廃棄物重量評価の変更（換算計数⇒実質重量）

- ・廃棄物重量評価変更：容積に対し定められた換算計数で重量を推定していたが、実質重量とのかい離が著しいため、実質重量での換算に切り替えた。
- ・2019年度より排出量目標を実質重量に切り替える。

・産業廃棄物 項目別目標・実績比較

項目	目標値	実績	結果
(1) 中間処理廃棄物	24.1 t	10.0 t	58.7%減
(2) 最終処分量	24.1 t	10.0 t	58.7%減

④ 節水

目標	実績	単位	評価	主要因	
500.0	558.0	m ³	11.6%増	×	稼働（売上）増加による

⑤ グリーン購入

目標	実績	単位	評価	主要因	
3.0	3.0	品目	1品目増	○	グリーンマーク付事務用品購入品目の拡大

III.来期に向けての是正項目

(1) 水道水使用量の削減目標

水道水使用量の削減目標について、2017年度の水道水臨時使用（浄化槽の入れ替えに伴う水道使用増加）分を除いた利用量設定としたが、稼働（売上）の増加によるトイレ等の使用増により目標値を上回った。
水道使用および排水の用途が生活用水であり、劇的な改善が見込めない中で過剰な節水目標を設定したとしても実現不可能なため、身の丈にあった改善目標を設定したい。

(2) グリーン購入の拡大から維持への切り替え

グリーン購入拡大のためグリーンマーク付き事務用品および環境配慮型商品の使用品目数を調査し、現状41品目中19品目についてグリーン購入されていることが判明した。
グリーンマーク付きでない事務用品については、代替品にグリーンマーク付きのものが存在しないなど、切り替えが困難であることも判明したため、現状については品目数の維持を目標とし、新規購入する事務用品はグリーンマーク付きのものを採用することとする。

5.2019年度目標

I.環境目標の設定（年度目標）

NO	項目	詳細	単位	前年実績(基準)		目標値
				種類	2018年度	2019年度
1	二酸化炭素 排出原単位の削減	2015年度比 原単位3%減少 (2016年度上昇分を挽回)	kg-CO ₂ ÷千万円	電力	353.3	298.2
		2016年度水準維持		灯油	1.0	0.4
		2016年度比 原単位2%削減		ガソリン	209.0	207.5
	二酸化炭素排出量※	—	kg-CO ₂		347,513	285,864
2	廃棄物排出抑制	2017年度（基準）より1 t 減	t		10.7	9.7
3	節水	上水使用量 500m ³ に抑制	m ³		592	500
4	グリーン購入	グリーンマーク付事務用品購入品目の維持	品目		19	19
5	省エネ型製品設計製造	技術関連会議でのOCD活動	回数		12	12

※使用する二酸化炭素排出係数 0.48

II 環境活動計画

NO	項目	単位	目標値	活動計画
			2019年度	
1	二酸化炭素 排出原単位の削減	電力	298.2	太陽光発電活用・空調稼働温度適正化
		灯油	0.4	灯油購入・使用量を前年並みに抑制
		ガソリン	207.5	TR本社に事務所スペース確保（移動コスト削減）
2	産業廃棄物排出抑制	t	13.6	OA機器・基板など、有価物収集種目増加
3	節水	m ³	530	洗面台等での節水啓蒙
4	グリーン購入	品目数維持	19	グリーンマーク付事務用品購入品目数維持
5	省エネ型製品設計製造	回数	12	技術関連会議でのOCD活動

6.中期目標




I.中期目標と活動

NO	項目	活動	単位	種類	基準	目標値		
					2017年度(目標)	2018年度	2019年度	2020年度
1	二酸化炭素 排出原単位の削減	前年度比1%減小	kg-CO ₂ ÷千円	電力	330	298.2	323	320
		2017年度水準維持		灯油	0.5	0.4	0.4	0.4
		前年度比1%減小		ガソリン	188.7	207.5	184.9	183.1
	二酸化炭素排出量	—	kg-CO ₂		329,762	285,864	327,918	327,340
2	産業廃棄物排出抑制	毎年1 t 抑制	t		10.7	9.7	8.7	7.7
4	節水	500m ³ 維持	m ³		500	500	530	530
6	省エネ型製品設計製造	技術関連会議でのOCD活動	回数		12	12	12	12

II.環境活動計画

NO	項目	活動	活動計画
1	二酸化炭素 排出原単位の削減	前年度比1%減小	空調温度設定の合理化・LED照明交換
		2017年度水準維持	灯油ストーブの適正な使用維持
		前年度比1%減小	HV導入の推進
2	産業廃棄物排出抑制	毎年1 t 抑制	有価物分別徹底による廃棄物減量、有価物排出種類の増加
4	節水	500m ³ 維持	手洗・トイレ 節水の啓蒙
6	省エネ型製品設計製造		技術関連会議でのOCD活動（月一回以上）

7.環境改善事例

番号	取り組み	写真	実施内容
1	事務所エリアにLED照明を導入		<p>4F設計室および営業室の照明をLED照明に切り替え(96台)</p> <p>⇒照明切り替えによる電力コストの削減が期待できる。</p>
2	商用車のハイブリッド化		<p>社有車(商用車)のうち「プロボックス」2台をリース契約満了のタイミングで切り替え。</p> <p>⇒長距離走行実績のある車両から切り替えを実施。</p> <p>JC08基準で8.2km/Lの燃費向上。</p>
3	環境保全活動への参加		<p>「汐川干潟クリーンアップ大作戦」(豊橋市主催)に参加。</p> <p>汐川干潟に流れ着いているプラスチックごみを清掃。</p>

8.法規・法令順守状況

I.主な法規・法令順守状況

法規・法令		判定	状況
騒音規制法	騒音規制基準の順守	○	騒音状況：全時間帯で規制値内
振動規制法	振動規制基準の順守	○	振動状況：全時間帯で規制値内
フロン排出抑制法	管理第一種特定製品の簡易点検及び専門点検	○	保守業者による年次点検および簡易点検（外観検査）実施
	一定規模以上の管理第一種特定製品の定期点検	○	保守業者による年次点検実施
	管理第一種特定製品の点検及び整備に係る記録等に関する事項	○	製品毎に点検記録簿整備 点検時毎、点検記録記載
浄化槽法	浄化槽の保守点検及び清掃	○	清掃（年一回）2018年9月 点検（年4回）実施
	法定検査の受検	○	2018年10月受検
廃棄物処理法	廃棄物管理および処理委託関連	○	法逸脱なし。 周辺住民からの苦情なし。
	マニフェスト交付一覧提出	○	遵守している。
労働安全衛生法	規制基準の遵守	○	遵守している。
省エネ法	判断基準の遵守	○	遵守している。
消防法	規制基準の遵守	○	遵守している。
PRTR法	規制基準の遵守	○	遵守している。
毒物及び劇物取締法	規制基準の遵守	○	遵守している。
豊橋市市条例	法律からの上乗せ条項遵守	○	遵守している。
愛知県条例		○	遵守している。

なお、上記法令・法規に関し関連する各機関から指摘を受けたことは3年間なかった。

II.外部からの苦情の受付状況

活動期間における周辺住民および外部機関からの苦情はなかった。

9.代表者による全体評価と見直し

I.はじめに

2018年度はエコアクション21の「2017年版ガイドライン」が適用され、経営における課題とチャンス認識した環境経営目標に基づき活動を進めてまいりました。

II.全体評価

① 環境負荷低減

電力・エネルギーについては工場増築等の効果により工場稼働が増加しましたが、2Sや労働環境の改善等により稼働効率が上昇し、CO2原単位では目標をクリアしました。

廃棄物排出量については、測定基準の変更（換算計数による重量の推定から実際排出重量へ変更）により減少幅が大きくなっております。廃棄物の排出傾向としては、従来廃棄物として排出していた金属・プラスチック類をリサイクル品として排出する活動を行い、排出量を抑制しております。

水道の利用については、工場増築に伴い浄化槽の入れ替え作業が臨時で発生し、水道使用量が増加しております。

② 法規・法令順守

環境法令違反や環境ヒヤリハットはなく、また、近隣住民や周辺企業、行政からの環境に関する苦情の発生はありませんでした。

III.見直しと総括

2019年度は前年に比べ厳しい経営環境が予測されますが、2018年度の反省を活かしつつさらなる効率化で省エネ活動を推進しエネルギー使用の抑制に努めていきたいと思っております。

廃棄物排出の抑制については、リサイクル品の分別活動の徹底を図り、商品や原材料の合理的な仕入活動や工場の2S推進、分別の徹底と有価物種類・品目の見直しで一層の削減を目指します。

法令順守については環境法令違反・ヒヤリハットの防止に努めてまいります。

2018年度より環境経営の有効性を高める「エコアクション21ガイドライン2017年版」の適用で、環境経営にもとづく環境取り組みを一層進めるとともに、社員ひとりひとりの環境意識の向上と全社的な環境活動のさらなる拡大を企図してまいります。

2019年 4月 27日
株式会社 サン電材社

代表取締役 中 川 英 雄